

江尻地区



ドキを肌で感じられるまちづくりに取り組みます。

④ 客船を誘致する

国内外から観光客が降りたつ玄関口として、清水港客船誘致委員会(望月薫会長)を中心に大型クルーズ船の誘致を進めており、寄港隻数は増加傾向にあります。

清水港を管理する静岡県は、香港のクルーズ会社「ゲンティン香港」と連携して「官民連携による国際クルーズ拠点形成計画書」を策定し、国土交通省の「官民連携による国際クルーズ拠点」を形成する港湾6港湾のひとつに選定されました。静岡県は今後、国の支援を得て、クルーズ船の寄港・発着拠点にふさわしいクルーズターミナルを整備し、2030年の寄港隻数175回を目標にクルーズ需要を開拓します。

⑤ 「海洋文化拠点施設」を整備する

日の出地区の東洋製缶跡地に、海洋生物や海洋の成り立ち、環境、未来への可能性などの展示を総合的に行い、国内外から多くの人が訪れる「海洋文化拠点施設」を整備します。大学や研究機関と連携し、人材育成や新たな海洋産業を創出する施設をめざします。

⑥ 魅力的なイベントを開催する

食・港・歴史的な建造物などの魅力を活かし、「シズオカ×カンヌウィーク」「清水七夕まつり」「清水みなど祭り」「富士山コスプレ世界大会」等を開催し、まち全体をひとつの劇場に見立てた「まちは劇場プロジェクト」を推進します。

⑦ 商店街の賑わいを創る

空き店舗を活用した新たなビジネスを創り出す「まちなかりノバージョン」に取り組み、駅周辺の商店街を元気あふれる商業エリアにしていきます。

⑧ まちの顔を整備する

JR清水駅江尻口(西口)～みなと口(東口)～新

「清水庁舎」～マリーナート～河岸の市つながるペDESTリアンデッキは、富士山を見渡すことができ、みなととまちをつなぐ清水都心の新たな顔になり、賑わいを生み出します。

⑨ 清水の宝を世界に発信する

桜えびは首都圏メディアへのプロモーションの結果、テレビや雑誌で取り上げられ、注目を集めました。清水都心を訪れる人たちに、三保松原、富士山の絶景、まぐろ、桜えびなど、清水の宝を発信していきます。

基本方針3 災害に強い防災機能の充実

港町として発展してきた清水は、沿岸部に中心市街地が作られています。江尻地区から日の出地区のエリアにかけて、静岡県が整備する防潮堤、民間の皆様の協力による津波避難ビルを増やし、万に備えて、住んでいる人、訪れる人にとって安心安全に過ごせるまちづくりに取り組みます。

⑩ 防潮堤を整備する

江尻・日の出地区に東海地震などレベル1の地震・津波を防ぐ防潮堤を、静岡県が2022年を目標に整備します。

⑪ 地震や津波からまちを守る

新しい清水庁舎、新しいJCHO桜ヶ丘病院は十分な耐震性能を備えた建物になります。

⑫ 津波避難ビルを増やす

新しい清水庁舎とペDESTリアンデッキを津波からの避難に活用します。

⑬ 医療救護体制を充実する

新しいJCHO桜ヶ丘病院は、清水都心の救護病院として市民の命を守ります。

(静岡市、静岡県に取材して記事を作成)